第56号
編集室 〒794-2114
愛媛県今治市吉海町
名2916-2 高龍寺内
TEL 0897-84-2129
FAX 0897-84-4495
Eメール chiho@mg.pikara.ne.jp
責任者　鴨井 智峯

新年のお慶びを申し上げます。

高龍寺院家

新年のお慶びを申し上げます。

高龍寺総代世話人会では一昨年より「高龍寺平成の大修理事業委員会」を設立して、工事内容の検討から事業見積もりと業者選定、そして勧募事業を進め本体工事が二十八年に入り始まり、施工業者の献身的な工事により見事にお寺がよみがえって参りました。

この事業に関しましては、現存の建物を完工するには寺社建築を専門に行う技術を持った業者選定が不可欠との事から、愛媛県内で数多くの寺社建築を手掛ける、丹瓦建材・曽我工務店と契約をし見事な技術で工事が進みましたが、これには勿論多くの檀家の皆様の賛同と浄財により進めることができましたことを、事業委員会を代表いたしまして篤くお礼申し上げます。

高龍寺檀家の皆様には多大なご迷惑をお掛け致しましたが賜りました浄財を無駄にすることなく皆様の菩提寺が永久に安泰で各家のご供養が今後とも安寧でありますようにお祈り申し上げます。

また二十八年末現在で工事契約金に寄付金が到達致しておりませんので、申し訳御座いませんが御寄付賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

高龍寺平成の大修理事業委員会
高龍寺　筆頭総代長　矢野 都林

高龍寺平成の大修理事業寄付勧募のお願い

事業費が多額で心苦しいですが、
できましたら一口１０万円を目途に地元世話人さんか、
郵便振替にてご納入お願い申し上げます。
郵便振替口座　01640-0-53891
口座名　「高龍寺奉賛会」

台湾 慶修院開創百年記念法要に出仕

11 月に台湾花蓮市にある真言宗慶修院の開創百年記念法要に出仕させて頂き、その時その場所に立ち会えた事に感激いたしました。

台湾はその昔日清戦争から第二次世界大戦の終戦を迎えるまでの 50 年間日本による統治が行われ、言語から生活様式に至るまで日本化が浸透した所でした。

当時多くの日本人が台湾に移住しましたが、中でも東海岸にある花蓮市は日本人が入植し開墾し出来た町と言われています。特にこの町には徳島県の吉野川沿いの人達が多く入植し原野を切り開き開墾したそうですが、厳しい環境の中、日本を懐かしむ思いから皆でお金を出し合い、高野山に嘆願し「高野山吉野布教所」を建立し、不動明王と弘法大師そして四国八十八か所のお砂踏み霊場までも作り、信仰の拠りどころとしました。

しかし終戦を迎えるにあたり、全ての日本人は着の身着のまま帰国し一時は荒廃したそうですけど、地元の方々の篤い思いにより境内整備がすすめられ、名前を「慶修院」と改めて、地域の人々の憩いの場となっています。

そして今回、百年記念の法要を行う事となり出仕させて頂きました。当日は晴天のもと、境内は多くの人々で賑わい、統治時代に住んでいた人や先祖がこの町の生まれと言う方々数十名も日本から来られ、台湾の人達による日本の盆踊りや茶道の実演にうどんのお接待なども行われ、終日境内は日本一色でした。

私が境内に居ますと多くの方々から握手や撮影を求められ、また高齢の方々がとても美しい日本語をお話になる事に驚き、皆さんの日本に対する温かい思いを深く感じ感激致しました。

▲真言宗慶修院の開創百年記念法要

▲多くの人で賑わった開創百年記念法要

日本法師護摩火供 爲民祈福

◎來自日本高野山眞言宗無量寺的創住持豐田眞彰，每年都會來到慶修院主持法會。今年特別的是，慶修院前身的吉野布教所住持弘海法師的後代妙紘快，以及眞言宗開山祖空海大師，當年行遍日本四國八十八處靈場第廿二番的平等院創住持谷口眞榮及其妻子、岳母等人也到場，共同來此護摩火供，誦經祈福，息災解厄。現場也有民衆在旁雙手合十，同心祈禱。慶修院執行長陳義正表示，他們都是因爲慶修院而集結在此，讓遠離家鄉旺盛自難得。　（圖文／記者謝宗諱）

▲台湾の新聞「更生日報」でも報じられた

平成の大修理工事が完成しました

工務店の見事な技術と、
檀家の皆様のご賛同とご浄財により、
見事にお寺がよみがえりました。

見事に葺きあがった大屋根

客殿外壁の漆喰塗り替え

見事に葺きあがった大屋根

心より御礼申上げます。

痛みが酷かった本堂に通じる回廊工事

生まれ変わった客殿の廊下

古い廊下板の取り外し

新しい本堂縁板搬入

薄暗く歩幅の歩きにくかった階段付け替え

生き返った本堂縁板

白漆喰で明るくなった客間

塗り替え前の客間

昼でも薄暗かった玄関の解体